



# 生活クラブ風車



# 夢風News

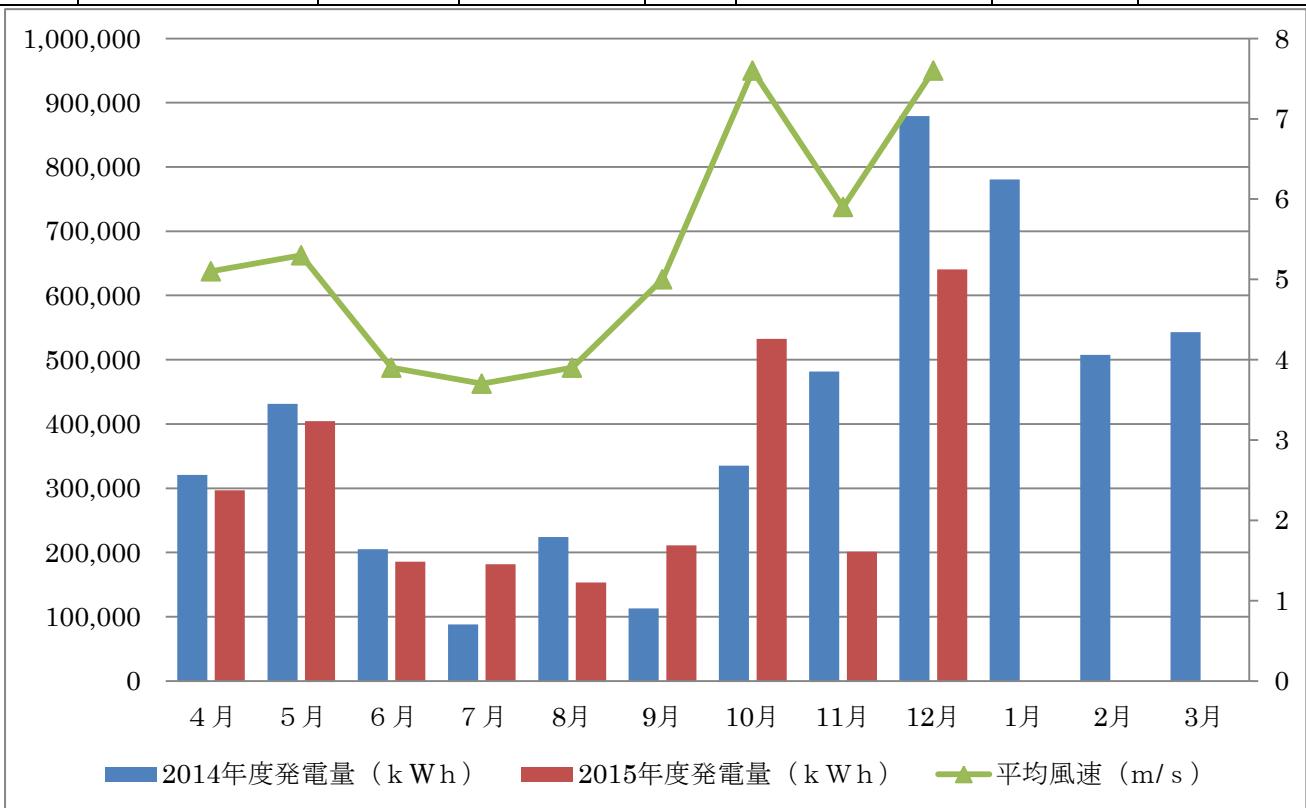
Vol.43

●発行 2016.1.15 一般社団法人グリーンファンド秋田

●発行責任者 半澤彰浩（代表理事） ●編集責任者 鈴木伸予

## ■ 2015年度 発電実績 ■

	発電量 (kWh) 【前年比】	平均風速 (m/s)	設備利用率 (%)		発電量 (kWh) 【前年比】	平均風速 (m/s)	設備利用率 (%)
4月	296,695【92.6%】	5.1	20.7	10月	532,473【158.8%】	7.6	36.0
5月	404,165【93.7%】	5.3	27.3	11月	201,178【41.8%】	5.9	14.0
6月	185,870【90.7%】	3.9	13.0	12月	640,502【72.8%】	7.6	43.3
7月	181,669【206.7%】	3.7	12.3	1月			
8月	153,120【68.4%】	3.9	10.3	2月			
9月	210,921【187.2%】	5.0	14.7	3月			



○ 12月も、先月に引き続き、風況としては過去3年と比べて最も低くなりました。

※ 1日の設備利用率 (%) = 発電量 (kWh) ÷ (定格出力 (kWh) × 24時間) × 100

## ■ 芹田地区での加工用トマト実験栽培のまとめ



2015年12月17日、風車の建設地である芹田地区で2015年度に実験的に取り組んだ加工用トマトの栽培のまとめ会議を芹田営農組合とおこないました。

これまで、塩害に悩まされていた芹田地区で加工用トマトが無事に栽培できたことや、消費する人たちの顔が見える活動が出来たこと、婦人部の方たちや地域の活性化が出来たことなど、嬉しい意見が多く出ました。収量や物流の課題などありますが、次年度に向けて継続拡大の検討をすすめていく予定です。また新たに non-GM 大豆や酒米の栽培についても可能性について検討議論していくこととなりました。

## ■ 夢風ブランド開發生産者連絡会 報告

2015年12月17日に2015年度第1回の夢風ブランド開發生産者連絡会を道の駅ねむの丘会議室で開催しました。

夢風ブランド開發生産者連絡会は、2014年の7月に、「生活クラブ風車を縁として秋田県にかほ市と生活クラブは相互に自立し、連帯による発展をすすめる地域間連携による新たな経済モデルづくりをめざします。夢風ブランドはこれを表現する消費材とし、にかほ市の生産者連絡会として夢風ブランド開發生産者連絡会を設置する。」という主旨で設立しました。2015年度は、(有)三浦米太郎商店の三浦悦朗氏を会長に、12の生産者・団体が会員となり、連携推進協議会より半澤彰浩共同代表がメンバーとして加わり、にかほ市役所とグリーンファンド秋田が事務局を務めています。

17日の主な議案は、「デポーにかほフェア&交流企画のまとめについて」「夢風ブランド品の開発活動の進捗報告と活動発表会の開催」「千葉・埼玉での取り組み報告と東京単協の取り組み企画について」「芹田営農組合による加工用トマトの実験栽培のまとめ報告」などです。

今年度より活動を始めた夢風ブランドの開発にあたっては、それぞれのご苦労もあり、上手くいってうらやましいなどという本音もチラリ。生産者の横のつながりが生まれ、強まっている事を実感し、これからの活動にますます期待しております。



## ■にかほ市と生活クラブとの連携推進協議会 報告

2015年12月18日、2015年度第2回にかほ市と生活クラブとの連携推進協議会幹事会をにかほ市役所象潟本庁舎会議室で開催しました。

連携推進協議会は、にかほ市の須田正彦副市長と生活クラブ神奈川の半澤彰浩専務理事（GF秋田代表理事）を共同代表とし、にかほ市の各部長、生活クラブの首都圏4単協の代表より役員を選出し、総会及び幹事会を開催しています。

18日の幹事会の主な議案であった「2015年度交流企画のまとめと2016年度交流企画1次案」については、にかほ市役所としても、首都圏との交流は刺激となる事から是非続けていきたいとの意見があり、今後の交流のあり方については、福祉等含めた様々なテーマを設定し交流することも検討課題とします。また、「夢風ブランド開発活動について」は、日本酒・夢風やタラーメン・醤油の開発の進捗を共有し、広報紙の発行や発表会交通費として連携推進協議会の予算を執行することを確認しました。



### 生活クラブ風車 Q&A

電力の小売自由化が2016年4月よりスタートします。

生活クラブは、自然エネルギーを中心とした電気の共同購入にチャレンジします。2016年2月より先行実施として首都圏の生活クラブ組合員1500人を限定で募集を開始し6月よりの供給を行います。

電源は、秋田県にかほ市の生活クラブ風車「夢風」を始め、首都圏単協の事業所の太陽光や、群馬・栃木のメガソーラー、北海道石狩市の風力、新潟のバイオマスなどとし、発電源の明らかな電源を適正価格で取り組みます。

生活クラブ風車「夢風」が当初から目的としていたエネルギーを選択できる社会が実現・スタートします。おおぜいの組合員が参加し、自分たちでエネルギーを自治してゆくことは、自然エネルギーを応援し広げ、原発や化石燃料に依存しない持続可能な未来社会をつくっていくことに参加することです。





●● 夢風ブランドものがたり ●●

<生活クラブ神奈川>

「風力、太陽光・・そして電力小売り自由化へ」

～日本酒「夢風」完成披露～

生活クラブ神奈川では、夢風ブランド品として(株)飛良泉本舗と共同で日本酒「夢風」の開発をすすめてきました。2015年春に日本酒の利き酒や秋田酒こまちの圃場見学、(株)飛良泉さんとの協議を経て、秋、いよいよ生活クラブオリジナルの日本酒「夢風」の仕込み、12月には初絞りととなりました。2015年12月11日、生活クラブ神奈川の組合員6名で、にかほ市の飛良泉を訪問し、新種「夢風」の生酒の試飲を行いました。

2016年1月22日、生活クラブ神奈川的环境政策委員会主催で、エネルギーの学習会と、「夢風」完成披露・ラベル採用者発表を行いました。

エネルギーの学習会では生活クラブエネルギー政策と電気の共同購入でめざすことの学習に続き、名古屋大学の丸山准教授より「エネルギーに興味をもってもらうのではなく、人々の興味関心にエネルギーの問題を結びつける」ことが大事とお話を頂き、生活クラブ風車「夢風」はエネルギーという長い取り組みの中で“おまけ”を沢山増やす、例えば「夢風酒」など、良いモデルになることを期待しているとの事です。

夢風のラベルは、神奈川の組合員からの公募で、横浜北生活クラブ大丸デポの岸さんのものが採用されました。馴染みのある鳥海山をあしらひ、夢風をカラーで表した、明るい雰囲気ラベルです。

さていよいよ夢風の試飲です。(株)岡永の立田さんより純米大吟醸「夢風」の香りの味わい方を伝授され、(株)飛良泉の齊藤社長よりにかほの風車を縁としてオリジナル品が誕生した事、遠田杜氏より秋田酒こまちや日本酒造りに組合員の意見が力になった事などの報告を受けました。

首都圏4単協発の夢風ブランド第1号の夢風酒がおおくの組合員に愛されるよう期待しています。



夢風ラベルが採用された  
大丸デポ・岸京絵さん

